

幼児とテレビの関わりについて

池山和子・千葉智子

(1994年10月17日 受理)

About the Relation of Infant's Behaviour and the Television

Kazuko IKEYAMA and Tomoko CHIBA

I. 始めに

近年、街中に VTR テープの貸出店がかなり頻度高く見受けられる。利用の主流は大人であると思われるが、保護者が子供のために子供向けテープを借り出している場合もけっこう多いようである。現代の生活ではテレビは放映されているチャンネルの選択だけでなく、VTR で見たい番組を繰り返し見たりテレビゲームをすることが日常に浸透し、テレビの利用の仕方についても選択の幅が広がってきている。1990年に筆者ら⁵⁾は、子供を主体としてテレビを利用する者と捉えるとテレビの存在は子供自身にとってどのような“価値”を持っているものかを知る目的で質問紙調査を行った。その結果、幼児はテレビで視聴した内容を友達との遊びに活かしているが、友達の存在はテレビの視聴よりも戸外への遊びへ誘う力が大きいと考えられる、また、テレビ内容の生活への取り入れについては幼児によって幅があり、特に性別によって好む番組やキャラクターに異同があるだけでなく、登場人物のつもりになって動作身振りをまねて遊ぶのは男児に多く、振りをつけて踊るといった行動は女児に多い傾向があることを調査結果から結論づけた。前者の、「戸外での遊び」や「友人との交友」といった活動には TV 視聴は置き換えられないことは、小学生に関して既に以前に明らかにされている¹⁾。また、母親のテレビ視聴の時間的な長さが、年齢が幼いほど子供のテレビ視聴時間と関係が深いことが、調査によって裏付けが重ねて得られてきている¹⁾。前回の筆者らの調査では母親の視聴量に関しては調査項目に入れていなかった。また、調査対象は鹿児島市とその近郊の始良地区の幼稚園の在園児であり、居住環境の異なる地域を対象としてはいたが対象児全てが県内の中心部に居住していた。

本報告では、調査の対象を県内の大隅と離島に広げ、保護者のテレビ視聴時間量を調査項目に加え、子供のテレビ視聴と母親のテレビ視聴との関連を含めテレビと幼児の関わりに影響を及ぼすと考えられるものについて、前回とは別の質問紙を作成して調査し、考察を行った。

II. 調査の方法

(1) 調査の時期と調査用紙の配付

1992年(平成4年)10月から11月にかけて、各幼稚園を通じて配付、回収した。

(2) 調査の対象

前回の調査(1990年)では、鹿児島市を中心としてその近郊を含む鹿児島県内の中心部において行ったので、今回は、鹿児島市内の比較的中心的な住宅地域の幼稚園、大隅地区の中心である鹿屋市内の幼稚園、離島の中心的な位置にある名瀬市内の幼稚園を園児を対象として調査した。質問紙への記入者は保護者である。調査用紙を配付したのは鹿児島市内、鹿屋市内の各1幼稚園と名瀬市内の2幼稚園であるが、今回の考察には回収したもののうち一部を用いた。

〔表1〕 調査対象幼稚園(居住地域)とクラス・性別人数

幼稚園 クラス	鹿児島		鹿屋		名瀬	単位:人(%) 計
	年長	年中	年長	年中	年長	
男児	26	30	31	30	26	143(47.8%)
女児	19	32	44	21	40	156(52.2%)
計	45	62	75	51	66	299(100.0%)

〔表2〕 遊び相手となるような子供が近くにいるか

	たくさん	少しは	いない
鹿児島	41(38.7%)	57(53.8%)	8(7.5%)
鹿屋	40(32.0%)	70(56.0%)	15(4.6%)
名瀬	35(53.8%)	27(41.5%)	3(4.6%)
計	116(39.3%)	154(51.9%)	26(8.8%)
1990年調査	83(13.0%)	394(61.6%)	162(25.4%)

NA=2 単位:人(%)

III. 調査の結果と考察

(1) 考察の対象

調査全体としては525名に配付、384名分を回収した。今回考察の対象として用いたのは、名瀬市内の1園と鹿屋市内の年少クラスを省き、〔表1〕の299票である。対象とした園とクラスでの回収率は73.5%、全体での有効票率は60.0%である。またこの回答者のうち家庭にテレビを設置していない者が2名あったが、1名の回答には友達の家でテレビを見ている様子でテレビに関する回答がなさ

〔表3〕 特に好きな番組・CMの有無 単位:人(%)

	あ	る	な	い	わからない	NA
今回	番組	276(92.3%)	15(5.0%)	6(2.0%)	1	
	CM	82(27.4%)	97(32.4%)	94(31.4%)	25	
前回	番組	(96.9%)	(1.1%)	(1.7%)		
	CM	(35.4%)	(32.6%)	(31.6%)		

〔表4〕 夢中になって必ず見る番組—地域(園)別

	あ	る	な	い	不明	計	NA
鹿児島	102 (96.2%)	4 (3.8%)	0 (0.0%)			106	1
鹿屋	114 (91.2%)	7 (5.6%)	4 (3.2%)			125	
名瀬	50 (83.3%)	8 (13.3%)	2 (3.3%)			60	6
	266 (91.4%)	19 (6.5%)	6 (2.1%)			291	7

df=4 $\chi^2=9.79$ $P<0.05$ 単位:人(%)

れてたので299名を考察の対象とした。質問紙の記入者は、283名(94.6%)が母親であった(父親5名, その他1名)。居住している近くに遊び相手となるような友達がいるかどうかについては、[表2]に示したように今回の調査の方が友達の存在が多いとしている回答者が多くなっている。

(2) 地域とテレビ視聴

[表3]は、「お子さんが見る番組の中でも特に好きな番組、CMがありますか」という質問に「ある」「ない」「わからない」のいずれかで回答を求めた結果を、1990年の調査結果とともに示したものである。今回の調査結果は番組・CMとも1990年の結果と同様となっている。今回は質問紙の後半でよく似た「夢中になって必ず見る番組がありますか」という質問を行った。その結果が[表4]であるが、地域によって差があり、離島の名瀬では「ある」の回答が他地域に比べ低くなっている。そこでテレビに関する回答を地域別にクロス集計し、 X^2 検定によって有意差を調べた。その結果を[表5]から[表7]に示す。全体として、鹿児島市においてテレビと子供の関わりが度合いが高く、名瀬においては低い傾

[表5] テレビを見ながら画面と一緒にのまね—地域(園)別

	ある	ない	不明	幼児に	計	NA
鹿児島	81 (75.7%)	12 (11.2%)	3 (2.8%)	11 (10.3%)	107	
鹿屋	71 (56.8%)	22 (17.6%)	2 (1.6%)	30 (24.0%)	125	
名瀬	35 (54.7%)	13 (20.3%)	2 (3.1%)	14 (21.9%)	64	2
	187 (63.0%)	47 (15.8%)	7 (2.4%)	55 (21.9%)	296	2
	df=6	$x^2=13.55$	$P<0.05$	単位：人(%)		

[表6] 視聴しながらするまねの内容—地域(園)別 単位：人(%)

		鹿児島	鹿屋	名瀬	地域差
変身のまね	よくする	27(32.9%)	21(26.6%)	3(8.3%)	**
	時々する	35(42.7%)	28(35.4%)	25(69.4%)	$x^2=15.70$
	殆どない	20(24.4%)	30(38.0%)	8(22.2%)	NA=101
關いのまね	よくする	17(20.7%)	11(14.1%)	5(14.7%)	
	時々する	21(25.6%)	23(29.5%)	10(29.4%)	NA=104
	殆どない	44(53.7%)	44(56.4%)	19(55.9%)	
歌	よくする	20(24.4%)	26(32.9%)	8(21.6%)	
	時々する	53(64.6%)	45(57.0%)	24(64.9%)	NA=100
	殆どない	9(11.0%)	8(10.1%)	5(13.5%)	
ふりと踊り	よくする	23(28.4%)	13(16.5%)	4(11.8%)	**
	時々する	49(60.5%)	32(40.5%)	18(52.9%)	$x^2=22.57$
	殆どない	9(11.1%)	34(43.0%)	12(35.3%)	NA=104
英	よくする	3(3.7%)	6(7.8%)	2(6.1%)	
	時々する	43(53.1%)	37(48.0%)	14(42.4%)	NA=107
	殆どない	35(43.2%)	34(44.2%)	17(51.5%)	
言葉せりふ	よくする	13(16.3%)	13(16.3%)	4(11.4%)	
	時々する	50(62.5%)	49(61.3%)	17(48.6%)	NA=103
	殆どない	17(21.3%)	18(22.5%)	14(40.0%)	
動作	よくする	7(8.8%)	3(3.8%)	1(3.1%)	
	時々する	29(36.3%)	30(37.5%)	6(18.8%)	NA=106
	殆どない	44(55.0%)	47(58.8%)	25(78.1%)	
		df=4	*** $P<0.01$		

〔表7〕好きなキャラクターに関する行動—地域(園)別

単位:人(%)

	鹿児島			鹿屋			名瀬			NA
	◎	○	×	◎	○	×	◎	○	×	
身の周りの物にキャラクターのついたものを欲しが	106 (99.1%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	124 (99.2%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	57 (95.0%)	3 (5.0%)	0 (0.0%)	6
関連したことをよく話す	27 (25.5%)	53 (50.0%)	26 (24.5%)	34 (27.6%)	62 (50.4%)	27 (22.0%)	5 (8.6%)	36 (62.1%)	17 (29.3%)	11
つもりになって身振りをしたりして遊ぶ	26 (24.8%)	60 (57.1%)	19 (18.1%)	12 (9.7%)	69 (55.6%)	43 (34.7%)	3 (5.3%)	29 (50.9%)	25 (43.9%)	12
雑誌などで関連した絵を見つけて喜ぶ	34 (32.4%)	57 (54.3%)	14 (13.3%)	30 (24.2%)	58 (46.8%)	36 (29.0%)	6 (9.8%)	36 (59.0%)	19 (31.1%)	8
絵をよく描いたり、描いて欲しが	42 (40.4%)	52 (50.0%)	10 (9.6%)	47 (38.2%)	61 (49.6%)	15 (12.2%)	4 (6.8%)	36 (61.0%)	19 (32.2%)	12
関連したおもちゃや絵本を欲しが	22 (20.8%)	49 (46.2%)	35 (33.0%)	19 (15.6%)	45 (36.9%)	58 (47.5%)	4 (7.0%)	12 (21.1%)	41 (71.9%)	13

注) *1 $x^2=22.75$ $P<0.01$ *2 $x^2=17.10$ $P<0.01$ *3 $x^2=30.27$ $P<0.01$ *4 $x^2=22.71<0.01$:df=4
◎よくする ○時々する ×殆どしない

向を見ることができる。

名瀬では、近くに友達となるような子供が、他の地域より有意ではないが多い様子が見られる〔表2〕。しかし実際に遊ぶ人数では、鹿児島の方がやや多い人数で遊んでいる子供が多い傾向が窺えるがこれも有意ではない〔表8〕。

保護者の側についてみると、〔表9〕は保護者が子供のテレビ視聴に関して心がけていることであるが、名瀬では「特にない」の回答が多い。また保護者自身のテレビ視聴時間をたくさんみる時とあまり見ない時の2つの場合を挙げ、それぞれに1日当たりの視聴時間の記入を求めた。テレビはつけっぱなしにしてあり母親の場合家事をしながらのながら

視聴が多いので書きにくいとコメントを記入している者も数名あった。記入され

〔表8〕遊ぶ人数

NA=2 単位:人(%)

	1~2人	2~3人	3~4人	5人以上
鹿児島	15(14.1%)	53(50.0%)	35(33.0%)	3(2.8%)
鹿屋	29(23.2%)	40(32.0%)	48(38.4%)	8(6.4%)
名瀬	10(15.3%)	31(47.7%)	22(33.8%)	2(3.1%)
計	54(18.2%)	124(41.8%)	105(35.7%)	13(4.4%)

〔表9〕保護者が子供のTV視聴に関して心がけていること—地域(園)別

単位:人(%)

	鹿児島	鹿屋	名瀬	計
できるだけ一緒に見る	22(20.6%)	22(17.9%)	12(20.7%)	56(19.4%)
質問にできるだけ答える	50(46.7%)	33(26.8%)	16(27.6%)	99(34.3%)
見る番組を話しあって決める	23(21.5%)	18(14.6%)	11(19.0%)	52(18.0%)
なるべく教育番組をみせる	13(12.1%)	23(18.7%)	11(19.0%)	48(16.6%)
特にない	23(21.5%)	45(36.6%)	27(46.6%)	95(32.9%)
その他	5(4.7%)	9(7.3%)	2(3.4%)	16(5.5%)

注)複数回答

df=10 $x^2=19.68$ $P<0.05$ NA=10

た結果をもとに視聴時間の量によって4段階に分け、地域の別によりクロス集計した結果が〔表10〕である。やはり名瀬においては保護者の視聴時間量も他の2地域と比べ低い様子が見られる。他の2地域に比べ、名瀬の保護者では特に多い時で4時間以上の視聴が低い理由についてはさらに別の調査をする必要があるが、地域社会として共通な生活状況の全体的な傾向と関わりがあるのではないかと考えられる。

〔表10〕保護者のテレビ視聴時間（多い時）—地域（園）別 単位：人（％）

	鹿児島	鹿屋	名瀬	計
2時間未満	7(6.7%)	8(6.6%)	12(19.7%)	27(9.4%)
4時間未満	53(51.0%)	63(51.6%)	37(60.7%)	153(53.3%)
6時間未満	34(32.7%)	42(34.4%)	9(14.7%)	85(29.6%)
6時間以上	10(9.6%)	9(7.4%)	3(4.9%)	22(7.7%)
	df=6 $\chi^2=16.43$ P<0.05			NA=11

(3) 幼児のテレビの関わりと影響要因

テレビ視聴時間の長さは必ずしもテレビとの関わりの深さを意味しない。子供の場合も他にすることがないためただ漫然と時間つぶしにテレビを見ているという場合もある¹⁾。内面で深く関わりながら特にその影響が行動として表されない場合もあると思われるが、特に幼児の場合、まねしたり、関連する物への興味や話題に載せることは一般に関わりの深さの現れとしてみることができると考えられる。ここでは、テレビと子供の関わりの深さの指標として、調査項目の「テレビを見ている時に画面と一緒にまねしてすること—①変身のまね、②闘いのまね、③歌のまね、④ふりをつけて踊る、⑤英語のまね、⑥言葉・せりふのまね、⑦拍手など動作のまね」と「好きなキャラクターについてみられる行動—①身の周りの物にキャラクターのついたものを欲しがると、②そのキャラクターになったつもりで身振りなどまねしたりして遊ぶ、③身の周りからそのキャラクターに関連した絵を見つけて喜ぶ、④キャラクターの絵を描いたり描いて欲しがると、⑤関連したおもちゃや絵本をほしがる」を取り挙げた。この2項目合わせて10の質問は、それぞれ「よくある」「時々ある」「殆どない」のいずれかで回答を求めている。よくあるを1点、時々あるを2点、殆どないを3点として10質問の得点を合計して、各対象児のテレビとの関わりの強さを得点とした。また子供の一週間のテレビ視聴量を曜日ごとに選択肢を用意して回答を求めたので、その回答から「30以下」と「見ない」を1点、30分～1時間を2点、1～2時間を3点、2～3時間を4点、3～4時間を5点、4時間以上を6点として、一週間の全体を合計し、テレビ視聴量得点とした。それぞれの目的変数（外的基準）とし、説明変数として調査項目の中から説明変数を選び数量化I類によって、関わり度合いと視聴量の予測を試みた。結果は〔表11〕と〔表12〕であり、同じ説明変数を用いたものである。この分析に用いた14の説明変数については説明変数相互の独立性の検討を十分行っていない。また、決定係数もそれぞれ、0.3033、0.2200と低く、共にここで用いた説明変数で予測することは難しい。幼児の「テレビとの関わりの度合い」や「テレビ視聴時間量」に影響を及ぼしているも

〔表11〕 目的変数「テレビとの関わりの度合い」に対する数量化I類による分析

順位	項目	カテゴリー	N	スコア	レンジ
1位	保護者のテレビ視聴量 (多い時)	2時間未満	13	1.105	4.4748
		4時間未満	93	-0.015	
		6時間未満	61	0.230	
		6時間以上	8	-3.370	
2位	地域	鹿児島	74	-1.530	3.5809
		鹿屋	74	0.781	
		名瀬	27	2.051	
3位	見る番組を話合って決める よう心掛けている	選択	38	1.470	1.8772
		非選択	137	-0.408	
4位	主な遊び場として自宅の室 内がある	選択	121	0.563	1.8252
		非選択	54	-1.262	
5位	主な遊び場として公園があ る	選択	103	0.723	1.7561
		非選択	72	-1.034	
6位	子供の視聴番組の内容を制 限している	選択	66	-0.903	1.4491
		非選択	109	0.547	
7位	遊ぶ時の人数	1～2人	31	-0.019	1.3702
		2～3人	77	0.622	
		3～4人	58	-0.748	
		5人～	9	-0.429	
8位	教育番組を薦めて見せるよ うにしている	選択	31	-1.017	1.2364
		非選択	144	0.219	
9位	特にテレビ視聴に関して制 限はしていない	選択	15	1.106	1.2101
		非選択	160	-0.104	
10位	全体の視聴時間を制限し ている	選択	28	-0.972	1.1572
		非選択	147	0.185	
11位	なるべく保護者が一緒に見 るようにしている	選択	41	0.531	0.6929
		非選択	134	-0.162	
12位	性別	男児	74	-0.304	0.5265
		女児	101	0.223	
13位	クラス	年長	100	-0.212	0.4938
		年中	75	0.282	
14位	主な遊び場として友達の家 がある	選択	105	0.039	0.0983
		非選択	70	-0.059	
15位	主な遊び場として近所の空 き地がある	選択	33	0.080	0.0981
		非選択	142	-0.019	

決定係数 0.2200

のは他にたくさんの要因やより重要な要因があると思われる。そのことを留意した上で2つの結果を比べて検討すると、ともに保護者のテレビ視聴量が第1位であり、幼児の「テレビ視聴量」に関しては、他の変数に比べレンジの大きさが特に大きい。「関わりの度合い」に関しては第2位以下のレンジと視聴量の場合程の差は、「視聴量」の場合程大きくはない。また第2位以下の順位が「関わりの度合い」の場合と「視聴量」の場合とでかなり異なっている。幼児とテレビの関わりには、保護者のテレビ視聴の時間量がある影響をもっていると考えられ、特

〔表12〕 目的変数「一週間のテレビ視聴量」に関する数量化I類による分析

順位	項目	カテゴリー	N	スコア	レンジ
1位	保護者のテレビ視聴量 (多い時)	2時間未満	23	-6.209	10.4063
		4時間未満	149	-1.320	
		6時間未満	82	3.117	
		6時間以上	20	4.197	
2位	子供の視聴番組の内容を制限している	選択	105	1.225	1.9863
		非選択	169	-0.761	
3位	主な遊び場として近所の空き地がある	選択	52	-1.369	1.6893
		非選択	222	0.321	
4位	遊ぶ時の人数	1～2人	51	0.197	1.5992
		2～3人	113	0.417	
		3～4人	98	-0.695	
		5人～	12	0.905	
5位	全体の視聴時間を制限している	選択	38	-1.119	1.2991
		非選択	236	0.180	
6位	主な遊び場として公園がある	選択	159	-0.335	0.7984
		非選択	115	0.463	
7位	特にテレビ視聴に関して制限はしていない	選択	20	-0.706	0.7618
		非選択	254	0.056	
8位	地域	鹿児島	102	-0.380	0.7099
		鹿屋	119	0.330	
		名瀬	53	-0.010	
9位	主な遊び場として友達の家がある	選択	157	-0.259	0.6077
		非選択	117	0.348	
10位	性別	男児	129	-0.311	0.5881
		女児	145	0.277	
11位	主な遊び場として自宅の室内がある	選択	185	0.190	0.5859
		非選択	89	-0.396	
12位	見る番組を話合っ決めてよう心掛けている	選択	50	-0.413	0.5051
		非選択	224	0.092	
13位	クラス	年長	168	0.167	0.4305
		年中	106	-0.264	
14位	教育番組を薦めて見せるようにしている	選択	47	0.350	0.4224
		非選択	227	-0.072	
15位	なるべく保護者が一緒に見るようにしている	選択	54	-0.197	0.2454
		非選択	220	0.048	

決定係数 0.3033

に幼児の視聴時間にはかなり直接的な影響力をもっていると考えられる。しかし幼児が視聴したテレビの内容を幼児自身の生活や行動に反映させていくような関わりを深めるものとしては別の要因が大きく関わっていると考えられる。

〔表13〕は好きなキャラクターに関する行動を男女別にみたものであるが、つもりになって身振りをしたりして遊ぶ、絵を描いたり描いて欲しががる行動は男児に高く、女児では関連したおもちゃや絵本を欲しががる様子が男児よりやや高い様子が見られる。

〔表13〕好きなキャラクターに関する行動—性別

単位：人(%)

	男 児			女 児			性 差 (NA)
	よくある	時々ある	殆どない	よくある	時々ある	殆どない	
身の周りの物にキャラクターのついたものを欲しがる	139 (97.9%)	3 (2.1%)	0 (0.0%)	149 (98.7%)	2 (1.3%)	0 (0.0%)	(5)
関連したことをよく話す	36 (25.7%)	67 (47.9%)	37 (26.4%)	30 (20.3%)	85 (57.4%)	33 (22.3%)	(10)
つもりになって身振りをしたりして遊ぶ	25 (18.0%)	81 (58.3%)	33 (23.7%)	16 (10.8%)	78 (52.7%)	54 (36.5%)	* $x^2=6.83$ (11)
雑誌などで関連した絵を見つけて喜ぶ	36 (25.5%)	77 (54.6%)	28 (19.9%)	34 (22.7%)	75 (50.0%)	41 (27.3%)	(7)
絵をよく描いたり、描いて欲しがる	56 (40.3%)	69 (49.6%)	14 (10.1%)	38 (25.7%)	80 (54.1%)	30 (20.3%)	** $x^2=9.80$ (11)
関連したおもちゃや絵本を欲しがる	21 (15.1%)	43 (30.9%)	75 (54.0%)	24 (16.4%)	64 (43.5%)	59 (40.1%)	* $x^2=6.01$ (12)
				df = 4			** P < 0.01 * P < 0.05

Ⅲ. 結論

今回の調査から、以下の2点をまとめることができる。

ア. 幼児のテレビとの関わりは、遊び友達の存在や戸外の遊び場の有無などの他に、その地域のテレビの番組編成の状況、また、地域に居住する大人としてその地域社会の傾向が見出せると思われる保護者のテレビに対する考え方やテレビ視聴時間量などの地域の社会的な環境との関わりがあると考えられる。

イ. 特に保護者のテレビの視聴時間量の多少は、幼児の時間量とかなり直接的な関係があると考えられ、ひいては幼児の遊びや生活へのテレビの取り入れの度合いへも影響をもっていると考えられる。しかしテレビの内容と深く関わったり、遊びや生活にどう取り入れるかにはさらにもっと大きい別の要因が働いていると考えられる。

子供向けテレビ番組の内容は児童文化材の1つと考えることができる。これまで、また現在放映されてきた番組の中には、ある時期熱狂的に受け入れられて消えていったものや時間が経って再放送されたりリメイクされているものもある。児童文化材の1つである子供向けのお話は、現代において創作作家によって生み出されている童話とは別に長い時代や地域を超えて普遍的に子供に取り入れられてきたものが長い年月を経て数多く積み上げられている。テレビの子供向け番組の中でこのような子供向けお話に匹敵する、普遍的に受け入れられ続けるものはどのようなものか、幼児に深く働きかける力をもつ番組内容の特性を把握していくことが、テレビと子供の関わりを知る上では欠かすことができない。番組内容そのものが持つ幼児に働きかける力をどのように捉えていくか検討することが今後の課題である。

調査に快く応じて下さいました各幼稚園，また，幼児の保護者の皆様に深く感謝いたします。

参 考 文 献

- 1) 武藤隆編 テレビと子供の発達 東京大学出版会 1987
- 2) 村山貞雄編 日本の幼児の成長・発達に関する総合調査 サンマーク出版 1987
- 3) 星美智子 テレビっ子の指導 続最新育児の理論と実際 207-209 同文書院 1979
- 4) 星美智子 幼児のテレビ視聴の指導 総合乳幼児研究 1(1) 50-53 同文書院 1977
- 5) 池山和子・平田睦美 幼児の生活とテレビ 鹿大教育学部研究紀要 43 95-109 1991
- 6) 駒沢勉 数量化理論 放送大学教材 1992
- 7) 林知己夫 水野欽司 計量生物学・行動計量学 放送大学教材 1990